

那珂市名誉市民紹介

なかいがわ ひろし

(故)中井川 浩氏

明治33年9月25日～昭和24年11月3日

(1900年)

(1949年)



◆ 功績の概要 ◆

明治33年(1900年)茨城県那珂郡木崎村門部(現在の那珂市門部)に生まれました。水戸中学校(現在の水戸第一高等学校)を中退し、大正8年(1919年)日本中学校を卒業しました。

その後日本大学で2年学び、やまと新聞社水戸支局に入社して、大正11年(1922年)に報知新聞水戸支局に移り、間もなく土浦支局長に抜擢されました。

大正14年(1925年)には夕刊茨城民報社を設立し、また昭和2年(1927年)には茨城新聞社と合併して取締役になり、土浦市にサクラ印刷所も創設しました。

昭和4年(1929年)に土浦町議会議員に当選した後、昭和6年(1931年)には茨城県議会議員選挙で出生地である那珂郡選挙区から出馬し

当選しました。昭和7年(1932年)には茨城県第2区から衆議院議員に当選しました。その後も2回の当選を果たし、中央政界では、大臣秘書官、政務次官を務めるなかで、幅広い人脈形成を成し遂げました。

さらに、昭和13年(1938年)6月の土浦大水害による復興対策や久慈川の治水促進など、郷土の為に尽力し、中央政界では終戦まで活躍を続けました。

また、戦後の食糧不足に鑑み、阿見町にあった霞ヶ浦海軍航空隊跡地・土浦海軍航空隊予科練跡地の文化的再利用を目的として、現在の茨城大学農学部及び霞ヶ浦高等学校の前身となる財団法人霞ヶ浦農科大学を、霞ヶ浦干拓工事等に携わっていた株木建設の社長株木正一氏らとともに創設し、理事長に就任しました。そのほかにも日立セメント株式会社の会長に就任したほか、茨城石炭株式会社を創立するなどの活躍をしました。

氏は、非常な努力家で身体は24貫(約90kg)もあり、常ににこにことした度量の広い人でありました。多くの事業を手掛け、人脈を駆使し、戦後の活躍を期待されましたが、GHQにより公職追放となりました。その後体調を崩し、惜しまれながら昭和24年(1949年)11月3日に永眠しました。

なお、昭和26年(1951年)に公職追放が解除となりました。

◆ 名誉市民選定の理由 ◆

衆議院議員として県北地域の発展に尽力するとともに、県南地域の戦後復興にも多大な貢献をしました。また、阿見町にあった旧海軍施設跡地の文化的再利用を目的として、現在の国立大学法人茨城大学農学部及び学校法人霞ヶ浦高等学校の前身となる財団法人霞ヶ浦農科大学を創設した功績は深大であり、茨城県の農業振興においてきわめて貴重な財産となりました。

氏は政界だけでなく経済界でも優れた手腕を発揮し、日立セメント株式会社の会長に就任するほか、茨城石炭株式会社を創立するなど実業家としても目覚ましい活躍がありました。

氏の活動は広く茨城県下に及び、その功績は誠に顕著であり、郷土の誇りとして尊敬に値するものと認められ

るため、名誉市民として選定するものです。

【略年表】

1900(明治33)年	木崎村で生まれる
1914(大正3)年	茨城県立水戸中学校(現水戸一高)に入学
1919(大正8)年	日本大学入学
1921(大正10)年	大学を中退し、やまと新聞社入社水戸支局勤務となる
1922(大正11)年	報知新聞社土浦支局に移る
1924(大正13)年	報知新聞社を退社し衆議院議員秘書となる
1925(大正14)年	夕刊茨城民報社を設立
1929(昭和4)年	土浦町議会議員に当選
1931(昭和6)年	那珂郡選挙区から茨城県議会議員に当選
1932(昭和7)年	茨城県第2区から衆議院議員に当選
1936(昭和11)年	文部大臣秘書官となる
1939(昭和14)年	陸軍参身官に任命される
1940(昭和15)年	旭日小綬章を受ける
1944(昭和19)年	小磯内閣の厚生政務次官に就任
1946(昭和21)年	財団法人霞ヶ浦農科大学創立
1947(昭和22)年	常陸セメント株式会社創立
1949(昭和24)年	茨城石炭株式会社創立 土浦の自宅で逝去